

電気通信大学 平成20年度シラバス

授業科目名	国際文化演習		
英文授業科目名	Seminar in Intercultural Studies		
開講年度	2008年度	開講年次	2年次
開講学期	後学期	開講コース・課程	昼間コース
授業の方法	講義	単位数	2
科目区分	総合文化科目-言語文化科目-言語文化演習科目		
開講学科・専攻	情報通信工学科 情報工学科 電子工学科 量子・物質工学科 知能機械工学科 システム工学科 人間コミュニケーション学科		
担当教官名	宇田川 尚人		
居室	非常勤講師		

公開E-Mail	授業関連Webページ
signifiant@x.email.ne.jp	

<p>【主題および達成目標】</p> <p>主題： 国際文化を学問として理解するという事は、現代思想を理解するのと同様に、多様化する情報と価値の海を前にしてそれらの真のリアリティーを問うこと、あるいは多重化する「時代」「世界」「自己」等のリアリティーに対する<高次のアクセス権>を手に入れることを意味する。 だが、では何故そのテーマで、もっぱら西欧の思想のみを取り上げるのか？ それは、テクノロジーのフラット化や政治的なグローバリズム指向、さらにはそれらに対置される孤立化する個人のアイデンティティクライシス、リアリティーなき自分探しゲーム等の現代日本の抱える様々な社会現象の背後に、西欧理性の持つ或る本質的な「ゆらぎ」・その時代的な相克の影響が色濃く垣間見られるからである。 一切のものを数値化し同質の尺度で自らの元に取り込もうとする普遍的理性の「同一性」要求と、そこから逃れ、決して普遍化されえない身体、時間、存在、他者への責任等、自らとは異なる「他なるもの」の中へあえて自らの在処を見いだそうとするもう一つの理性。 この「同」と「他」の対立、その狭間での「ゆらぎ」を軸として、講義では、現代を生きる我々のアイデンティティ、私と「他なるもの」の関係性、異文化理解の在り方について究明をしてゆきたい。</p> <p>到達目標： 真の到達目標は、受講者一人一人が、多様化する価値観と情報の氾濫する海の中で、単なるトレンドに終わることのない真の時代の要請や社会のニーズをみずから読み解いてゆく能力を獲得すること、また自己と世界を冷徹に分析する論理能力を習得することにある。 そうは言っても半期の講義の故、実質的な目標は、講義で紹介される思想の論理構造の解明やその有効射程距離の検証を各自が追体験・追思考すること、またそうした思考訓練を通して、具体的な状況の中で「自己」と「社会」との関係性を論理的に分析し考察するいわば思索の<コツ>を身につけることとしたい。</p>
--

電気通信大学 平成20年度シラバス

【前もって履修しておくべき科目】

特になし

【前もって履修しておくことが望ましい科目】

特になし

【教科書等】

特定の教科書は使用しない。必要に応じてプリントを配布する。

【授業内容とその進め方】

- | | | | |
|---------------|---|----|----------------------------|
| I. 問題提起 | 1 | —— | 近代の終焉；絶対的価値の崩壊と価値の多様化 |
| II. " | 2 | —— | 2つのニヒリズムと自己増殖するコード |
| III. 科学的理性と文化 | 1 | —— | 差異化する「事実」と「現実」 |
| IV. " | 2 | —— | 分裂する「主体」と構成される「現実」 |
| V. 個別生命と文化 | 1 | —— | 本来的自己と非本来的自己 |
| VI. " | 2 | —— | 時間性と「死」と「各自」性 |
| VII. 他者の尊厳と文化 | 1 | —— | 同型性に基づく他者理解とその限界 |
| VIII. " | 2 | —— | 自 - 他の「非対称性」と他者への責任 = 「倫理」 |
| IX. 無意識的欲望と文化 | 1 | —— | 欲望とは他者の欲望である？ |
| X. " | 2 | —— | 「シニフィアン」と心の病と文化 |

【成績評価方法及び評価基準(最低達成基準を含む)】

評価方法：平常点（リアクションペーパー）＋レポート＋出席率によって総合的（3：5：2）に評価する。

評価基準：2/3以上の出席率と50点以上のレポートの成績を最低基準とする。

【オフィスアワー：授業相談】

適宜相談に応じるが、授業前後等に事前にアポイントを取ることが望ましい。

【学生へのメッセージ】

授業への積極的な参加を期待する。

電気通信大学 平成20年度シラバス

【その他】
「演習」という性格上、受講希望者が多い場合は、人数を制限する可能性もある。